

創造性に富む研究で、未来に貢献する若手研究者を顕彰する
第14回（2025年度）三島海雲学術賞の決定

公益財団法人 三島海雲記念財団(理事長 羽田 正、所在地 東京都渋谷区)は、厳正なる審査の結果、**第14回三島海雲学術賞の受賞者3名**を決定いたしましたので、お知らせいたします。

本賞は、自然科学及び人文科学分野において、傑出した研究業績を有する優れた**若手研究者(45歳未満)**を顕彰する賞です。

贈呈式は7月4日に東京會館(東京都千代田区)で開催し、受賞者には**賞状と副賞300万円**が贈られます。

【自然科学分野】 (食の科学)

	おぼた ふみあき 小幡 史明 氏	40歳
	理化学研究所 生命機能科学研究センター	チームディレクター
	「健康寿命を制御する食要因の発見とその遺伝学的解析」 S-アデノシルメチオニン(SAM)が、脂質代謝、腸幹細胞活性、組織修復、個体老化に強く関わることや、メチオニン/SAM代謝が食環境と寿命をつなぐ中心的なメカニズムであることを解明した。さらに食環境の変化が腸内細菌叢を介して健康寿命に影響を及ぼすメカニズムを解明した。	

【自然科学分野】 (食の科学)

	ふるさわ ゆきひろ 古澤 之裕 氏	42歳
	富山県立大学 工学部	准教授
	「食物繊維による腸内環境と免疫の制御を介した疾患予防に関する研究」 食物繊維のもつ新たな生理機能とその作用メカニズムを明らかにし、炎症性疾患(IBD)やアレルギーの発症予防のために摂取すべき食物繊維種に関する科学的エビデンスを提供した。また、食物繊維の機能に免疫調節作用という新たな価値を与え、免疫疾患に対する新たな予防戦略の開発につながる成果を上げた。	

【人文科学分野】 (アジアに関する人文社会科学)

	つちや きしゅう 土屋 喜生 氏	37歳
	京都大学 東南アジア地域研究研究所	助教
	「EMPLACING EAST TIMOR: Regime Change and Knowledge Production, 1860-2010」 「地域」を知る上で影響する要素を、戦争や体制、科学的研究動向、国家と社会関係など、移り変わる外部環境から解き明かした。東南アジアの小国、東チモールの表象と歴史をテーマに、マルチアーカイバルな資料調査に基づく地域研究の成果として高く評価される。	

(所属、年齢は2025年4月1日現在)

「カルピス」生みの親 三島海雲



1878年(明治11年)大阪府いまの箕面市の寺に生まれた三島海雲は西本願寺文学寮そして仏教大学に学び、24歳の時、青雲の志を抱いて中国大陸に渡ったのち、やがて仕事で訪れた内モンゴルの地で、遊牧民の活力源と言われる**酸乳(発酵乳)**に出会いました。

1915年(大正4年)に帰国後、自らの内モンゴルでの健康体験をもとに、乳酸菌を活用した食品の事業化に取り組み、試行錯誤を繰り返したのち1919年(大正8年)7月7日七夕の日に、**日本初の乳酸菌飲料「カルピス」**の発売に漕ぎつけます。「カル」はカルシウム、「ピス」はおいしさを表すサンスクリット語から自身が命名。水玉のデザインは天の川、天体の縮図を形どったものです。

「カルピス」を日本の代表する飲み物に育て、長く経営の第一線にあった三島海雲でしたが、幾多の試練を乗り越えることができたのは、「私欲を忘れ公益に資する」「国利民福」に代表される独自の世界観と信念だったとも言えます。1962年(昭和37年)84歳のときに、「私が今日あるのは、先輩、友人、知己、さらには国民大衆の方々の惜しみないご声援によるところのものであると思った。したがって私の得られた財物は、ひとり三島海雲の私するものはない。あげて社会にお返しすべきものである。そして、お返しする方法として、財団を設立することが望ましい。」と考え、全私財を投じ三島海雲記念財団を設立いたしました。

<本件に関するお問合せ先>

公益財団法人 三島海雲記念財団

(担当：青山)

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-6-10 ジラッフアビル

T e l : 0 3 (5 4 2 2) 9 8 9 8

e - mail : mishimak15@mishima-kaiun.or.jp

U R L : <https://www.mishima-kaiun.or.jp>